

## ◇ 国 語

国 2-1～国 2-16 まで 16 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

日本人は太古の昔から木と付き合いながら生活を支えてきた。木の家に住み、木の建具や家具、また食器を使い、木からつくった紙で文物を記録してきた。また普段は下駄をはき、桶おけや樽たるを生活に生かしてきた。風呂だつて檜ひのきの香りで満ちていた。日本文化のさまざまな文物の多くも、木という自然の素材である。日本の絵画は和紙の上に描かれた襖ふすま絵、屏風びょうぶ絵、衝立ついたてなどの障屏しょうへい画から掛け物（掛け絵）、扇あふぎ絵、団扇うちわ絵、色紙、継紙つぎがみなどまで、まさしく木の文化といえよう。

戦後、日本は都市化が進む。都市部の密集したヒンソウな住宅を見た欧米人のジャーナリストは、「日本人は木と紙の家に住んでいる」と評し、またその小さなマッチ箱のような家並みを「兎小屋」と揶揄やゆした。多分これはわずかな庭の家と家が接した、都市近郊の建て売り住宅を指しているであろう。これを当時「文化住宅」ともよんでいたのは、何とももの悲しい。

日本の住宅は本来、軒の深いわらぶきの堂々とした農家や切り妻破風はふ、白木の美しい数奇屋造りであり、西洋の城と比較しても見劣りしないはずだ。

ア 西洋ではギリシャ文明以降、石積みや煉瓦の家に住み、テラコッタ（注1）の瓦やタイルで壁や床を飾り、石のチヨウコク（注2）芸術や石灰粉（注2）のフレスコで壁や天井に絵を描くという、石の文化を築いてきた。

石という素材は半永久的であるが、木という天然の素材はやがて朽ち果て大地に戻る。それゆえ植物の生きた素材を用いた木の文化は石の西洋文化に比べ、きわめてはかなく危ういという宿命を持っている。

日本人の美意識は、期せずしてこの脆弱で常に移ろいつづける自然の造形に呼応しながら育まれてきたのである。四面を海に囲まれた島に住み着いた日本人の祖先は、四季があり、常に移ろう自然の匂のかたちや色に美を見出し、これを写し取る美に無上の喜びを感じたに違いない。

「花鳥風月・雪月花」とは、日本人が自然の中に風流な「もののあわれ」や「いさぎよさ」を見出し、これが粹の心とも通じる美意識にジヨウセイ（注3）され、日本の芸術・文化を象徴することばとなった。

木と和紙は、こうした日本人の美学を支える重要な素材であった。イ 人が住み暮らす住居や家具、生活用品に自然素材である木や木を原料とする紙が使用され、常に生活や文化の中心に置かれていたのは、当然の成り行きとも言える。またそ

ここに施された紋様や装飾は、当然ながら美しい日本の自然の再現を目指した表現であったことも、つけ加えたい。

なぜなら和紙ほど木版印刷や描画に適した表現材料は他に類をみない。他の国と比べ日本が優れた文化を保持できたのも、日本に和紙を漉く技術が伝わっていたからであろう。

振り返ってみると、和紙が日本文化に占める割合は想像以上に大きい。和紙に記された日本の古文書や記録文書、書籍が現存するのも、日本の手漉き和紙が丈夫な素材であり、いかに耐久性、保存性に優れているか世界に示したよい例であろう。日本の紙幣も和紙でつくられているが、やはり日本のお札がもつとも丈夫で長持ちするという。そもそも絵画や書は和紙に描かれたり書かれることを前提としている。書画はもとより襖絵、屏風絵、扇絵、団扇絵から歌をしたためる色紙まで、すべて手漉きの和紙と墨や絵具の相性のよさがある。

室内に柔らかな光を採り入れる明障子は、日本独特の室内空間をつくりだしているが、和紙の透ける素材効果と風合いを生かした最高の空間演出のインテリアである。また和紙と竹木の枠を用いた照明具に行灯や提灯がある。和紙を透かしたほのかな光には、現代の全面をシヨウシャする電球や蛍光灯とは違って光とインエイが醸し出す懐かしい伝統の空気感と美意識が感じられるのではないか。

一九六〇年代から北欧のインテリアデザイナーが和紙の光効果に刺激され、競ってモダンな吊り下げ式（シーリング）照明器具をデザインしたが、素材はすべてプラスチックかアルミ板であった。同じ間接照明なのに、和紙と異なり何とも味気ない。

最近では薄い紙なのにハニカム構造によって強度を増した段ボール紙による家具が人気と聞く。やはり紙のもつ柔らかさが物理的にもウにもよい効果を生んでいるのだろう。建築家の坂茂は一〇年以上前から紙による建築づくりに挑戦している。どの作品も、軽快でしかもやさしい。紙の可能性は、まだまだ広がっていく。

もちろん日本文化がすべて木や紙で占められていたわけではなく、西洋と同様、石や鉄、青銅、黄銅（真鍮）などの金属、絹、木綿、麻などの繊維でつくられたものや表現がこれを支えた。しかし日本の文化ではあらゆる分野でやはり木と和紙が、圧倒的に大きな分野を占めている。

木はエ 不均質であり、その材料を使いこなすには職人の技が必要である。現代の工業化社会では、均質で加工しやすく管理しやすい金属や合成樹脂の方が使いやすく、大量生産に向いている。近年、合板のベニヤ板や積層材、木のチップを固

めた均質な材料が開発され、金型にはめ込んだような木質には似つかわしくない多くの製品が登場したが、何とも寂しい限りである。

日本の国土の七〇％が森林であり、杉、檜、松、ブナ、桐、樗、樟、桜など豊富な木の資源に恵まれ、これを利用した文化が他のどんな国々より長けていた。

現在のような電動工具もなかった江戸時代、世界にも稀なほど多種多様な木工具が日本で生まれた。この木工具によって木目や白木の美しさを最大限に引きだした建具や指物家具、工芸品の質の高さは、他のどんな国の木の文化にも類を見ない。まさに日本人の木を愛する美意識が、洗練した木の文化を生みだしたといえる。もともと現在、木目印刷の家具やプラスチック製の食器、寿司桶の筐にいたるまで疑似のフェイク製品が氾濫しているのも日本なのである。これはまた困ったものであり、課題だろう。

**オ** 日本独自の繊細な美しさは、自然のかたちや姿、色と結びついていることがわかった。私自身、日本文化の表層的な断面をピンポイントのように採りあげて、その表情の一部を概観したにすぎないのだが、このように列記してみると、やはり日本人は他のどの国の人々よりも自然とのかかわりの中で美を見出そうとし、そのかたちを紋様や日常生活の道具、家具、衣服などに表現してきたことが、よく理解できる。

日本人は自然のかたちや色をできるだけ身近に置き、季節の移ろいととも次々とこれを取り換えてきた。例えば毎日の食卓に並ぶ皿は、西洋であればいつも同じものであるのが通常だ。しかし日本では、春が近づくと桜の柄の食器で満開となり、秋には紅葉・桔梗の模様の食器で食卓は秋色に染まるのである。私には、皿の周縁に同じ柄ばかり施された食器で一年中食事をする西洋人の気持ちが理解できない。日本文化の様相におしなべて何とも人の心に優しい和やかな表情がみられるのは、やはり日本人がひたすら自然を恋人のように愛しみ、敬愛していたからではないだろうか。

(三井秀樹『かたちの日本美』による)

(注1) 「テラコッタ」

元来は焼いた土の意。高温で粘土を焼成して作った塑像、器などの総称。

(注2) 「フレスコ」

塗りたての漆喰の上に水彩で描いた絵。西洋の古い壁画に用いられた。フレスコ画法。

(注3) 「ハニカム構造」

英語で「蜂の巣」を意味し、正六角形を隙間なく並べた構造で、素材の強度を増している。

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ヒソウ

- ① コクヒンを招待する
- ② 稲のヒンシュを改良する
- ③ 地震がヒンパツする
- ④ ヒンブの差をなくす
- ⑤ カイヒンの植物

1

B チョウコク

- ① 山のチョウジョウに立つ
- ② 美しいチョウゾウを観る
- ③ 業務をカクチョウする
- ④ 薬品をチョウゴウする
- ⑤ トクチョウが際立っている

2

C ジョウセイ

- ① 環境をジョウカする
- ② 念願がジョウジュする
- ③ 酒をジョウゾウする
- ④ 目上の人にケンジョウの意を表す
- ⑤ ジョウキを逸する行動

3

D ショウシャ

- ① 受入れをショウダクする
- ② ショウケイ文字を読む
- ③ ショウガイを克服する
- ④ ショウサイな調査を行う
- ⑤ 辞書をサンショウする

4

E インエイ

- ① サンイン地方へ旅する
- ② 清涼インリョウ水を飲む
- ③ インキョ生活を送る
- ④ サンギイン選挙に出馬する
- ⑤ 物語のヨインを楽しむ

5

問二 空欄

ア・イ・ウ・エ・オ

に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中

からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

①したがって

②同時に

③これに対し

6

イ

①ところが

②もちろん

③しかるに

7

ウ

①全体的

②聴覚的

③材質的

8

エ

①本来的に

②恒常的に

③組織的に

9

オ

①しかし

②つまるところ

③その上

10

④視覚的

⑤表面的

④文化的に

⑤総合的に

④なぜなら

⑤あるいは

問三 傍線部（一）「こうした日本人の美学」とは何を指しているか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ①日本人は西洋文明の石の文化にあこがれ、西洋建築を模倣してきたこと
- ②外国人は「日本人は木と紙の家に住んでいる」と日本文化を評したこと
- ③日本人が自然の中に風流な「ものあわれ」や「いさぎよさ」を見出したこと
- ④日本の住宅は本来はわらぶきの農家や美しい数奇屋造りであり、西洋の城と見劣りしないこと
- ⑤植物の生きた素材を用いた木の文化は石の西洋文化に比べ、はかなく危ういということ

11

問四 傍線部（二）「和紙が日本文化に占める割合は想像以上に大きい」とあるが、その具体例として最も適当なものを、次の

①～⑤の中から一つ選べ。

- ①和紙を漉く技術は日本古来の文化であり、現代まで継承されて全国的に広まっている。
- ②島国に住み着いた日本人の先祖は四季があり、常に移ろう自然の旬のかたちや色に美を見出した。
- ③和紙は西洋の石の素材などに比べるとはかなく壊れやすいので、そこに日本人は「ものあわれ」を感じる。
- ④和紙は耐久性、保存性に優れ、日本ではお札や書画に使用される素材として広く利用されている。
- ⑤日本は森林が多く、利用できるものは木から製造された和紙しかなかった。

12

問五 傍線部(三)「何とも寂しい限りである」とあるが、筆者が「寂しい」と思うのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

13

- ①木は不均質であり、この材料を使いこなすには熟練した職人の技が必要であるから
- ②現代社会では均質で加工しやすく管理しやすい金属や合成樹脂の方が使いやすいため、木がだんだん使用されなくなったから

- ③木の資源に恵まれ優れた木の文化を持っている日本なのに、木質を生かさないう製品が大量生産されているから
- ④江戸時代には多種多様な木工具が日本で生まれ、それによって質の高い工芸品が製造されていたから
- ⑤日本文化はすべて木や紙で占められているわけではなく、西洋と同様に石や鉄などの素材も多用されているから

問六 傍線部(四)「日本人の木を愛する美意識」が生み出したものは何か。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

14

- ①木目印刷の家具やプラスチック製の食器など
- ②ハニカム構造によって強度を増した段ボール紙による家具
- ③江戸時代に生まれた多種多様な木工具
- ④木目や白木の美しさを最大限に引き出した家具や工芸品
- ⑤合板のベニヤ板や木のチップを固めた均質な材料で作られた製品



問七 この文章で筆者が主張したいことは何か。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 「花鳥風月・雪月花」ということばが日本の芸術・文化を象徴している。
- ② 日本で製作された木製の家具や工芸品の質の高さは他の国々が真似をすることが出来ない。
- ③ 日本人は自然とのかかわりの中に美を見出し、木や和紙を素材として文化を洗練させてきた。
- ④ 植物の生きた素材を多用した木の文化は石の西洋文化に比べ、はかなく危ういという宿命を持つ。
- ⑤ 日本人には皿の周縁に同じ柄ばかり施された食器で一年中食事する西洋人の気持ちが出来ない。

15

問八 この文章に付ける題名として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 日本の文化住宅
- ② 日本の文化水準
- ③ 日本と西洋の文化比較
- ④ 日本文化と木材
- ⑤ 木と和紙の文化

16

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

この正月、息子が両親を殺すという事件があった。テレビは、大きな事件として報道していた。詳しいことはわからないが、両親と二人の息子という家族の中で、弟が両親を殺害したという事件だった。

この事件を聞いたキンリン<sup>A</sup>の人の反応が面白い。

「そんな家族には見えませんでした」

「信じられませんね。お正月だというのに、こんなことが家族の間で起こるなんてなぜなのでしょう。不思議です」

お正月というおめでたい時に、こんな不幸な出来事が起こるはずがない、という思い込み、そしてそれが家族の中で起きるなんて……。よほど家族を信じ切っている人の発言なのだろうか。

その反応はごくア、人々は普通は家族の間で事件など起きようはずがないと思っている。事件が起きる環境は異常で、自分とは関係ない、そう思いたいのだ。だから、いざ事件が起きてみると、信じられない、不思議だという反応になる。

かつて民放テレビ局でキャスターをしていた時、事件を取材・リポートしていたことがある。取材先で聞く反応は同じだった。自分の近くで、火事が起きる。殺人事件が起きる。起きるはずのないことが起きたのだ。

「こんな近くで火事が起きるなんて」

「静かな住宅街でそんな事件が起きようとは今まで考えられませんでした」

自分のまわりはみな善人で事件など起こりようがない、そうした事故や事件は自分とは関係なく、テレビや新聞紙上で見るものと思っていたのである。

ケンチョ<sup>B</sup>な例が「振り込め詐欺」の電話である。子供や孫を装った人物から、のつぴきならぬことになったから、お金を工面して欲しいと親や祖父母に電話がかかってくる。

会社の大事な金をフンシツした、盗難に遭った、すぐお金が必要だという用件なのだ。風邪をひいていると言ったり、何人かがグルになって警官を装うなど、演出は手が込んでいます。

どうして家族からの頼みだと、疑いもせず聞いてしまうのか？ 家族を信頼していて、家族の危機は自分の危機と考えて、救

わねばと思ってしまうからだろう。

いくら子や孫が可愛<sup>かわい</sup>かろうと、一本の電話だけで、なぜそうやすやすとだまされてしまうのだろう。確かめようとせず、すぐその言葉に乗ってしまうのか。

欧米ではこうした犯罪は成立しにくいのではないか。日本人は、これだけ毎度話題になり警察から注意してと言われても、いざわが身に起ると、他人に知られる前に内々に処理しようとするから振り込め詐欺被害は一向に減らない。

銀行で、現場に遭遇したことがある。年配の婦人が大金を振り込もうとするのに疑問を持った銀行の職員が話を聞くと、「早く振り込まねば、あの子が困るから」と押し問答である。子供の危機はわが身の危機、それが成人した子供であっても自分がなにかしなねばと考える。

イ 親子愛なのかもしれないが、理性も深い考えもなく慌てふためき、行動に走ってしまう。

欧米と決定的に違うのは、個人主義と家族主義の違いであり、どちらがいいとは単純にいえませんが、家族という甘い意識の空間にはいくらでも犯罪が入り込んでくるのだ。

### 【甲】

その頃つれあいは、長時間電車に乗って大学に教えに行っていたから、詳しく聞いてみようとインタビューを試みた。

「その人の背はどのくらい？ やせ型？ 太っている？」などなど。すると一方的に電話は切られた。

あやしいと思った通り、電話の主は答えることが出来なかった。いくらそれらしく装っても、こちらがちゃんと問い質せば、まずだまされることはない。

家族のこととなると平常心が保てない。腑<sup>ぶ</sup>に落ちなくとも、内々に処理しなければと思ってしまうのだろう。そこが相手の狙いなのである。なぜ疑<sup>う</sup>ったり確かめたりする冷静さを失ってしまうのだろうか。手口は日々工夫されるため、こうした詐欺がなくなることはないだろう。

信頼が厚ければ、よもやトラブルなど起こるまいと思うあまり、家族一人ひとりの考え方や自分との違いを認めようとしないう。私は事件や事故が起こるたび、いつも明日はわが身と思う。家族といえど違う個人なのだ。個と個の間に摩擦が生じれば、何が起きても不思議はない。

大事に至らずとも、親子間の確執やきょうだいげんかなど日常サハンジである。誰かががまんをするか、ごまかすかしてその場は何事もなかったかのようにやり過ごしているが、積もり積もれば、大きなしこりになる。

私の家でも、親子の間の確執は大きかった。父は戦後公職追放になったイライラを抑え切れず、母に手をあげることもあった。私は出来るだけ父と顔を合わせぬことで衝突を避けた。中学生だった兄は、反抗期も手伝って、ついに正面から衝突する破目になった。

ある日学校から帰宅すると、座敷から父と兄のドゴウが聞こえ、母の ウ 声も混じっていた。そっと近寄ると、男二人がつかみ合い、母がそれを止めるため二人を分けようとしていた。

父と兄はお互い全く相手の言うことを受け入れず、あわやという場面もあり、もしあの時近くに凶器があったらどうなっていたか。事件が起きていても全く エ 状況だった。母の必死の執り成しで二人は離れたが、その時父の平手打ちで母の鼓膜は破れてしまった。正直いって恐かった。それを機に兄は、東京にいる祖父母のもとから学校に通うようになり、父と離れることになって ア ことなきを得た。

あのまま同じ家にいたら、必ずや事件が起きただろう。

だから私は様々な事件を見聞きしても、不思議には思わない。

どんな家族の間にも同様の事件は起きる。近いだけに、いったん憎しみがわくと人一倍、憎悪は大きくなり、許すことが出来ずに、ニ 極端な形をとってしまう。

自分の家族にだけはそんなことは起こらないと信じることは大きな思い上がりであり、どの家族にでも起こるといふ想像力を持つべきなのだ。

(下重暁子『家族という病』による)

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

A キンリン

- ①サンリンを伐採する
- ②ネンリンを重ねる
- ③リンジ休業
- ④フウリンが鳴る
- ⑤リンジンに挨拶する

17

B ケンチョ

- ①包丁をケンマする
- ②ケンゴな城
- ③功績をケンシヨウする
- ④ケンシンの態度
- ⑤ケンリを主張する

18

C フンシツ

- ①会議がフンキュウした
- ②フンゼンと席を立つ
- ③不満がフンシユツする
- ④フンイキが悪い
- ⑤フンコツ碎身

19

D サハンジ

- ①ハンニンを逮捕する
- ②ハンザツな手続き
- ③ハナイを区切る
- ④炊き込みゴハン
- ⑤ハンロンの余地がない

20

E ドゴウ

- ①ゴウカク通知
- ②ゴウインな手段
- ③訃報にゴウキユウする
- ④ブンゴウの傑作
- ⑤ゴウマンな性格

21

問二 空欄 ア ・ イ ・ ウ ・ エ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

- ① おめでたく
- ② 自然で
- ③ 不思議で
- ④ 不可解で
- ⑤ 静かで

22

イ

- ① かがやかしい
- ② うるわしい
- ③ あやしい
- ④ 恥ずべき
- ⑤ みにくい

23

ウ

- ① 笑っている
- ② 奇妙な
- ③ 忙しそう
- ④ 確かめる
- ⑤ 哀願する

24

エ

- ① あり得ない
- ② 不自然な
- ③ 恐るべき
- ④ 不思議はない
- ⑤ 不可解な

25

問三 傍線部 (a)・(b)・(c)・(d) の意味として最も適當なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 「のっぴきならぬ」

- ① 前途有望な
- ② 手が込んだ
- ③ 不愉快な
- ④ どうにもならない
- ⑤ ありがちな

26

(b) 「よもや」

- ① まさか
- ② まさに
- ③ まさしく
- ④ まるで
- ⑤ まったく

27

(c) 「あわや」

- ① 思った通り
- ② やむを得ず
- ③ あわよくば
- ④ あつという間に
- ⑤ すんでのところ

28

(d) 「ことなきを得た」

- ① 寂しくなった
- ② 無事にすんだ
- ③ 嫌になった
- ④ 大変なことになった
- ⑤ 全てが終わった

29

問四 【甲】の部分には、次の「い・ろ・は・に」の四文が入る。四つの文を正しく並べた組み合わせを、以下の①～⑤の中から一つ選べ。

30

い 私の名前も知っている。  
ろ 自分はそういう事態を解決する弁護士で、示談にするからお金が必要だ、ということだった。  
は お宅の御主人が電車の中で痴漢をして、今、駅長室に止め置かれている。  
に 私の所にも電話がかかってきたことがある。

- ① はーろーにーい                      ② いーにーろーは  
④ ろーいーはーに                      ⑤ はーいーろーに                      ③ にーいーはーろ

問五 傍線部（一）「なぜ疑ったり確かめたりする冷静さを失ってしまうのだろうか」とあるが、その理由として最も適当なもの、次の①～⑤の中から一つ選べ。

31

- ① いったん憎しみがわくと人一倍、憎悪は大きくなり、許すことが出来なくなってしまうから  
② 家族を信じ切っており、家族の危機は自分の危機だと考えて、救わなくてはならないと思ってしまうから  
③ お正月というおめでたい時に、こんな不幸な出来事が起こるはずがない、と思い込んでいるから  
④ 自分の家族にだけはそんなことは起こらないと信じる想像力を持っているから  
⑤ 事件や事故が起こるたび、いつも明日はわが身と思っているから



問六 傍線部(二)「極端な形」とは具体的にどのような事態を指しているか、最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選

- ① 親子間の確執やきょうだいげんか
- ② 母の必死の執り成し
- ③ すぐお金が必要だという用件
- ④ 家族という甘い意識の空間
- ⑤ 息子が両親を殺すという事件

32

問七 本文の内容にあてはまらないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 自分の家族にだけは不幸な出来事は起こらないと信じることは、大きな思い上がりである。
- ② 親子間の確執やきょうだいげんかなどありふれており、誰かががまんをしていれば、常に何事もなかったかのようにやり過ごせる。
- ③ 日本人の多くは家族のこととなると平常心が保てず、腑に落ちなくとも、内々に処理しなければと思ってしまう。
- ④ 日本と欧米の決定的な違いは家族主義と個人主義の違いであり、家族という甘い意識の空間には犯罪が入り込んでくる余地がある。
- ⑤ 家族といえど違う個人なのであり、個と個の間に摩擦が生じることもあるのだから、何か事件が起きても不思議はない。

33